

単語の変化、意味の変化を追う

社会変化を追うと、文章を分析せざるを得ず、単語の意味と変化を考えねばならない。文章や会話の言葉の使い方で、経験を積んだ時代が窺える。複数の単語をつないで表現すると意味の背景が分かる。時代と言うには大げさだが、単語の意味変化があれば表現から時代が分かって当然だろう。

日本語辞典は、1875年に文部省勤務の大槻文彦が命ぜられた。国語辞典の編纂は意外と新しい。識字率の高い日本にとっては遅いと言うべきだろう。平仮名が現在の文字と似通った形になったのは平安時代に紀貫之が土佐日記で表したときとされている。

しかし、辞書作りは明治になってからである。国家での編纂をめざしたが、予算不足のため、断念した。当初に任命された大槻文彦が自費出版を行った。これが『玄海』である。1891年に第一版(4分冊)が完了した。イギリス、アメリカ、ドイツなどでは、国が行っているが、日本では民間の手に委ねられた。民間が国語辞典の編纂を行えたのはある意味で幸運かもしれない。政府、政権の制約なしに単語を一般に流通している意味から拾える。実態に近い自由である。社会変化をそのまま反映できる。

単語の変化を調べるのに、当社では1932年発行の大言海と広辞苑を使っている。

1935年に「広辞苑」の前身である「辞苑」が発行された。その後1955年に岩波書店に引き継がれ「広辞苑」になった。「広辞苑第1版」から「第6版」までの7冊で調べる時がある。「辞苑」では掲載されていなかった単語が「広辞苑第3版」から載っている語がある。第1版と第6版では単語の意味が変化しているものもある。

仕事に関わる単語で「マネジメント」は1960年頃と1980年頃と意味が異なるし、1980年と現在とでも違っている。現在、認識されている「マネジメント」の多くは1980年頃の意味である。職種、労働形態、組織形態によってマネジメントの意味が定められているようだ。ところが広辞苑では第一版から第6版まで「下部を指揮・監督すること。管理。」となっている。これでは多くの人が「マネジメントは管理である」としても仕方がない。別の見方をすれば、専門とする者と一般とでは語釈が違うとする方が良いのかもしれない。

ブルーカラー、ホワイトカラーは死語になりつつある。ブルーカラーとホワイトカラーの境界が無くなりつつあるのだ。日本でのブルーカラーは1960年頃までの労働形態を表していた。現在では、ブルーカラーに類別していた職種も、高いレベルの知識、技術を持っていなければ務まらなくなった。元々の意味のブルーカラーの領域が小さくなってきている。ホワイトカラーに属していたサービス業務の多くは、アウトソーシングされつつある。組織活動を満足させる機能形態が1980年頃とは異質になりつつある。

多くの外来語が入ってくる。入ってきた外来語が日本語と混ざり合って意味が変化する場合もあれば、意味としておかしな外来語もある。グループ・ディスカッションなどは変な意味の外来語の代表だろう。意味も考えずに語呂で使われているのかもしれない。日本語の中でも、新たな単語が産まれてくる。消えていく単語、意味が変わって行く単語、なくなる単語様々である。今では当然のように使っている「情報」は1世紀半前はなかった。あったとしても別の意味で使われていた。一般に使われている「情報」の意味は曖昧である。本来の情報、知識、コミュニケーション、案内、等々。情報工学などは、情報とは関わりがない。

言葉を使う時、確かに伝達しようとするれば、正確な意味で使わねばならない。辞書の語釈で通用するとは限らない。適切な意味の単語の構成で考えをまとめなければ、節穴だらけの企画ができる。論証も適切にならない。

単語だけで、単語は変化しない。人々の暮らし、交流、社会システムが変化して、単語に影響を及ぼす。単語の意味が突き詰められて、思考に影響する。思考と行動が組み合わさり社会を刺激する。互いが重なり合っている。

一組織が一つの組織構造形式では成立しにくい。労働形態、就労形態が5つ、6つ存在するようになった。仕事の方法、方向が多数になって影響し合う。当然、仕事、異動、昇格が一つのパターンでは出来なくなっている。

言葉の意味が変化するサイクルは、だんだんと短くなってきている。近代、現代史の範囲で観察してみると、明治維新後から第一次世界大戦まで、第一次世界大戦から第二次世界大戦終了後の1950年頃まで、1950年頃から1970年頃、次の節目が1995年頃になっている。2000年以降の言葉の意味変化、表現構造変化を観察してみると3年から5年周期になっている。3年~5年での変化期間は、おそらく、これ以上に短くはないだろう。

詳しくは、【レポート】の《表現&思考構造変化を全国紙社説で追う》を見て貰えばよい。

言葉の意味変化は、意味が変化するだけではない。

一単語だけが変化するのではなく、多数の単語が関係しながら変化する。意味変化が、価値を変え、行動を変える。仕事の方向を変える。職務規定は同じであっても職務の内容は変化している。各部署の業務内容、方向と方法、目的は、1年に1回は最低確認しておく必要があるはずだ。

業務日報、週報、報告書などの文章を月に一度でも分析しておくのがもっとも良い方法だろう。必要とされた知識、技術、視点、意図を積み重ねておけば、常に各部署の状況が把握できる。

参照 小論【自らが使う言葉の意味を明確にする】